

生き物とかかわる

## 天井で動かないオニヤンマ 二本松市立川崎幼稚園（福島県二本松市）

[4、5歳]

### <きっかけ>

園庭の表土除去に合わせ、ピオトープも泥払いをして除染すると、泥の中からヤゴが2匹出てきた。関心の高い子どもたちが図鑑で調べ、「お尻が3つに割れているから絶対オニヤンマだよ！」と考えたり話し合ったりして、クラスで飼うことに決めた。

### 場面1 <ヤゴが大好きなオタマジャクシも小魚も食べなくなる>

5月下旬

ヤゴがお尻からブクブクと変な泡を出し始めた。荒い呼吸をしている時もあり、「お腹、壊しているんじゃないの?」「ヤゴのお医者さんはいないの?」「脱皮するのかな…?」「何だか苦しそうだよ」「トンボにならないで死んじゃうの?」など、子どもたちのやりとりが聞かれる。何日も全く餌を食べないので、みんなも心配になる。餌を全く食べなくなって17日目、動きが機敏になってきたが、体の変化も見られないため脱皮ではなかったと考える。



### 場面2 <朝からヤゴの姿が見えない>

6月中旬

登園した子どもたちが、順に水槽内の枝の下や隠れ家の中を探すが見つからない。それでも水槽内を懸命に探して机を動かした時、机の脚に登って羽化したトンボが、衝撃で床に落ちた。「わあー!こんな所に!」「オニヤンマだ」「トンボになってる」と立派にオニヤンマへと羽化した姿を見て、思わず子どもたちから拍手が起こった!歓声を聞きつけて園児全員が集まり、オニヤンマの誕生を知る。誕生を喜ぶ全員が見守る中で、オニヤンマはしっかりとした羽音を響かせ飛び立ち、天井に停まった。



ヤゴとオニヤンマが結び付かない子や、あまり興味を示さなかった子も輪に入り、図鑑を見ながら疑問に迫る。友達同士でのやりとりが活発になる。オニヤンマはその日、天井に停まったまま動かない。そうしている間に体はしっかりと伸び、羽もピンと張ってきたのがわかる。

じゃあさ、この白い糸って何?

ヤゴは、空っぽだよ。死んじゃったの?

ヤゴからオニヤンマが出てきたの!

軽いなだね~!

じゃあさ、ザリガニが脱皮していったら何に変わるの?



背中から出てきたんだ~

### 場面3 <どうしたら、外に出られるだろう?>

昨日より立派な体になったオニヤンマだが、天井に停まったままでは生きていけないと思う。「羽がキラキラ光って見える」「かっこいい~!」「ヘリコプターみたい!羽の音したよ!」「いつまで上にいるの?これからどうするの?」「お外に出ないとごはん食べられないよ」「天井に停まりながら体や羽を強くしていくんだね」



私は、お母さんトンボを作ってあげた!お母さんだよ~ こっちへおいでよ~

仲間だと思ってついてくるよ



扇風機回してみる?

心配して見守っていたが、しばらくして、飛び立つトンボを見送る。みんなの声が届き、きちんとお別れができる。「元気だね」「友達に会えたかな」「餌、ひとりで捕れるかな」など、一匹で生きていけるのか少し心配する。オニヤンマがまた戻ってくると考えて、手紙を書いてジャングルジムに付ける。

(その後) オニヤンマの誕生に感動した5歳児は紙芝居を作り、成長の様子を4歳児に伝えた。



## ポイント

ピオトープにいた虫がヤゴであることは、子どもたちには共通に理解できる実態なので、「何トンボのヤゴか?」という疑問を共有して飼育を始めています。このことから、子どもたちはトンボによってヤゴの様子や成長過程が違うことに注目し、意識してかかわることが期待できます。こうして、命の尊さを感じ、細やかに観察して興味の対象を理解しようとすることで、「生き物とかかわる」力がさらに育まれます。